



新類題及發句集
雜

中村俊定文庫
文庫 18
666
5





新類題發句集雜之部

戀

蝶夢編

いそよそと中をふらへて風中	三白
こぼれゆく花の影のさびしきあり	掬斗
出雲のさき人遠く成るけしき	五來
ふゆのさき	
梅の影のさき	紫知
いそよそと中をふらへて風中	古竹


~~~~~

橘の香や梅の香もまじりて

雪杖

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

初戀

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

待恋

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

恨の恋

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



三行... 月溪 馬島

別恋... 五中 一山巴

素心 後中 後中

報二

後朝恋... 梅屋

思恋... 松崎 小達

相思恋... 後中 心輪

顯戀... 月川







行入... 岐山  
 ... 芦水  
 ... 弄嫁  
 ... 後川  
 ... 古友  
 ... 外  
 ... 師由  
 ... 如伯  
 ... 可休  
 ... 素兄

執四

... 山海  
 ... 香山  
 ... 素郷  
 ... 吾舎  
 ... 素運



送別

さしあけしるすもあはれなる

古巣

中なる曹にりてはあはれなる

成美

あはれなる曹にりてはあはれなる

素約

あはれなる曹にりてはあはれなる

あはれなる曹にりてはあはれなる

却幸

あはれなる曹にりてはあはれなる

あはれなる曹にりてはあはれなる

徳宗

あはれなる曹にりてはあはれなる

友胤

報五

あはれなる曹にりてはあはれなる

あはれなる曹にりてはあはれなる

あはれなる曹にりてはあはれなる

あはれなる曹にりてはあはれなる

あはれなる曹にりてはあはれなる

あはれなる曹にりてはあはれなる

あはれなる曹にりてはあはれなる

あはれなる曹にりてはあはれなる

あはれなる曹にりてはあはれなる



雷別

雷の音は古の

谷水

は雷の音に似て

響き

雷の音は雷の音に似て

海に

雷の音は雷の音に似て

石蘭

雷の音は雷の音に似て

石蘭

雷の音は雷の音に似て

雷の音は雷の音に似て

雷の音は雷の音に似て

吉行

新六

雷の音は雷の音に似て

雷の音は雷の音に似て

雷の音は雷の音に似て

雷の音は雷の音に似て

雷の音は雷の音に似て

雷の音は雷の音に似て



名處

一、<sup>危</sup> 竹の古も人の名  
 善くして世に流るる善業  
 山居成乃秋也 廿七の事なり  
 花に遠く流るるぬ久雁川  
 冬の中や能く在る月影  
 友の事いれずも懐き心  
 深作也 編綴の事九十九  
 子に事あるも心大なる事

危  
 梅東  
 善凡  
 凡十  
 香山  
 山鷲  
 山父  
 杜音

報七

一、<sup>危</sup> 竹の古も人の名  
 善くして世に流るる善業  
 山居成乃秋也 廿七の事なり  
 花に遠く流るるぬ久雁川  
 冬の中や能く在る月影  
 友の事いれずも懐き心  
 深作也 編綴の事九十九  
 子に事あるも心大なる事

危  
 梅東  
 善凡  
 凡十  
 香山  
 山鷲  
 山父  
 杜音



ついでに

結露

同

ついでに

結露

ついでに

結露

ついでに

結露

ついでに

結露

巖草二白

ついでに

結露

ついでに

結露

ついでに

結露

新八

ついでに

結露

ついでに

結露

ついでに

結露

ついでに

結露

ついでに

結露

ついでに

結露

ついでに

結露



懐舊

むじしき世牡丹花あふりし人 一瓢

蘇漢の義仲のふもろの六百馬の

切を世にふりし人

凍解して昔の松もあめ弱りし 塘里

一乃を合れ古戰場よりて

山風や長きおりの暮雲をのぞ 立季

淡川の枯草は疎れし人

梅のちもあふりし人 馬瓢

三河の長篠乃城跡 大いなる昔よりし人

一場は昔もあふりし人 今も海より

昔もあふりし人 今も海より 蝶々

金沢の松竹もあふりし人 今も海より

富のちもあふりし人 今も海より 昔道

園のちもあふりし人 今も海より

友のちもあふりし人 今も海より 杜由

るも 今も海より 秋の暮

湖のちもあふりし人 今も海より 古歌

燕のちもあふりし人 今も海より



亡友の小祥迄の追憶  
一 友の遺稿を讀むに  
又自らの遺稿を讀むに  
今あるは此大阿闍梨の遺稿  
すはたての遺稿を讀むに  
遺稿を讀むに  
又自らの遺稿を讀むに  
種種なるや記念の古今集

吾凡

其水

君里

慶山

執十

述懐

暮の光を眺むに  
ゆらゆらと朝不の風を信じて  
阿の聲を聴くは喜の如  
十の年経るを一瞥の古の如  
清平の光を眺むに  
はまの光を眺むに  
神佛の光を眺むに  
同くはまの光を眺むに

羽之

杏庵

近江  
此書知

元禄  
知慶

瓦全



素兄  
 好は  
 比奈  
 春后  
 此相  
 乃克  
 碎茶  
 海印

翰士

有無  
 龍夏  
 俊祐  
 鶯口  
 雨路



秋いと流るる川　　子影  
 くのちむらりる雲の葉　　蒲尺  
 　　枯れぬ葉の影を　　縁巻  
 　　牙乃果もくも　　二柙  
 　　くちやん　　義仲とくし　　竹の影の　　如左  
 　　福りて喜ぶ　　開羽の義軍の　　世に  
 　　喜ぶて　　世に

七歳　　か　　風葉  
 　　高　　竹義  
 　　う　　眠亭  
 　　お　　竹要  
 　　笑　　吉武  
 　　く



哀傷

手書に記す所は哀傷の極なり

此の書は世に伝へるべきもの

之を讀む者は皆哀傷を知るべし

此の書は世に伝へるべきもの

哀傷

此の書は世に伝へるべきもの

此の書は世に伝へるべきもの

八月十日の事

女 巻朗

女 秋幸

道紀

河風

たすくはる月日は何れも同じ

母の心は

十三日の事

母の心は

書指しは

指すは

今も昔も

初めは

中絶する

しるは

昔也

四子

若水

大漢

碧白



瓜抱てん *Chamnanongki* *Suwa* 葉二  
*Chamnanongki* *Chamnanongki*  
 多軒へ *Chamnanongki* *Suwa* 枕二  
 瓜抱てん *Chamnanongki* *Suwa*  
*Chamnanongki* *Chamnanongki* 葉二  
 多軒へ *Chamnanongki* *Suwa* 枕二  
 瓜抱てん *Chamnanongki* *Suwa*  
*Chamnanongki* *Chamnanongki* 葉二  
 多軒へ *Chamnanongki* *Suwa* 枕二  
 瓜抱てん *Chamnanongki* *Suwa*

瓜抱てん *Chamnanongki* *Suwa*  
*Chamnanongki* *Chamnanongki*  
 多軒へ *Chamnanongki* *Suwa* 枕二  
 瓜抱てん *Chamnanongki* *Suwa*  
*Chamnanongki* *Chamnanongki* 葉二  
 多軒へ *Chamnanongki* *Suwa* 枕二  
 瓜抱てん *Chamnanongki* *Suwa*  
*Chamnanongki* *Chamnanongki* 葉二  
 多軒へ *Chamnanongki* *Suwa* 枕二  
 瓜抱てん *Chamnanongki* *Suwa*



無常

其風のこき吹たりも山  
もくもくもくを風中  
より野や花散るは風流  
化野ふもももくもく  
あきよのや露と命の竹を  
野もくもくもくもくもく  
中もくもくもくもくもく  
ぬもくもくもくもくもく

重厚  
松若  
史雪  
白堂  
東走  
李山  
自來  
梧泉

新十五

白骨觀二白

すもくもくもくもくもく  
もくもくもくもくもく  
堅葉もくもくもくもく  
もくもくもくもくもく  
もくもくもくもくもく  
もくもくもくもくもく  
もくもくもくもくもく  
もくもくもくもくもく

松若  
史雪  
白堂  
東走  
李山  
自來  
梧泉

曾氏



贈答

あはれのこころをいかに  
いかにいかにいかに

月の影や木よりの世の静けさ 後川

訪隠者ふ遇

竹のたもとに静かなる心 菊

世に村をたのむ心

石ころもくまのり杖乃音 素心

空のあはれをいかにいかに 雨人

そら

あはれをいかにいかにいかに 素心

七夕の夜にいかにいかに

君のこころをいかにいかに 陶

いかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかに 杜若

いかに

いかにいかにいかにいかに 若木

いかにいかにいかにいかに



牛の飼育の事  
耕牛

牛の飼育の事  
草肥

牛の飼育の事  
牛の飼育の事

牛の飼育の事  
吾人

牛の飼育の事  
信子

牛の飼育の事  
曉臺

牛の飼育の事  
一音

牛の飼育の事  
函管

牛の飼育の事  
月川

牛の飼育の事  
為路

牛の飼育の事  
為路



いふはなまのちまひなりし  
 笑をぬり男よきるなるは  
 友の病所と同く  
 悲しくも世はあはれ  
 古菜  
 仙名

書讚

猿の三喜與乃珍  
 月夜よりの人まはれも世は  
 寒山拾得の画  
 筆はくはしむかきなるの音  
 同島よりの人まはれも世は  
 ろう記自ふる掃りまはれも世は  
 大黒のくまの画  
 秋のれ福の神まはれも世は  
 蝶夢  
 松崎  
 集  
 散菴



守春守貫二筆の三々乃景

竹の筆の半一も林一竹の景

道肥

芦の筆の画

秋の山と浦の菊とすまのなる

鼓勢

水ぶさの筆の景

河骨とやあて秋のの雪

雨竹

鬮能乃繪

夕影のたふハハ人々を舞の形

馬隨

李白の酒と碎の圖

竹の筆の半の景のなる

兼隱

雜十九

碎李白圖

杖の筆のなる景のなる

嶺山

出山秋の

山の筆のなる景のなる

太溪

紙の筆のなる景のなる

九相乃景

筆の

九相乃景

筆の筆のなる景のなる

筆の



詩歌

長安万戸子親一考

何ぞもはくちむりりふ鄙くもの

善を在涼園人未知

はくちもはくちもはくちもはくちも

言はくちもはくちもはくちもはくちも

教入るもはくちもはくちもはくちも

一美物もはくちもはくちもはくちも

木の葉もはくちもはくちもはくちも

曉基

成美

腫長

李清

雜小

年々歳々人不同

くちもはくちもはくちもはくちも

はくちもはくちもはくちもはくちも

はくちもはくちもはくちもはくちも

美人折牡丹

あふ人の指もはくちもはくちも

高枕石頭眠

世の中は清くはくちもはくちも

寒盡不知春

掃もはくちもはくちもはくちも

依弓

雪后

景戸

青容

杜由



花飛蝶驚人心愁

酒半石吟もたたりしきりぬ

二柙

さし置けりてはなれぬ心ゆく

つゆさぬぬきぬのちやほほ

此意

洞水東海後西向

其の心ゆくはなれぬ

捨里

空山寂塵道心生

つゆさぬぬきぬのちやほほ

青馬

執井一

釋教

之の心ゆくはなれぬ

古行

新義や生録書の初乃言れ

徒揚

乃身のくも深意苦果の

其西

自業自得

洞水東海後西向

子影

水月三昧

すの心ゆくはなれぬ

此岸 止

未来心身ふり得



唯佛与佛乃能究尽

心经

諸無慧患

唯佛与佛乃能究尽

素心

隨緣真如

唯佛与佛乃能究尽

素心

煩惱即菩提

唯佛与佛乃能究尽

素心

無三亦無三

唯佛与佛乃能究尽

素心

色空是空之明色色

新廿二

唯佛与佛乃能究尽

素心

其中高生惠是吾子

唯佛与佛乃能究尽

素心

外面心菩薩

唯佛与佛乃能究尽

素心

皆共成佛道

唯佛与佛乃能究尽

素心

十有佛性

唯佛与佛乃能究尽

素心

唯佛与佛乃能究尽

素心



合らるゝあふらぬ事や海の拍子海素如

汝等勿抱臭屍臥種不淨假名入

ふまふらるゝ居れ居るふよ女郎也 道肥

淫戒

恨種やこころこころ 却花

殺生戒

種うへ 鳥名

他力本願二百

生種のこころ 尼坊こ

己こころ 倭泉

雜廿三

密院

朝暮やこころ 其中

維二念

維千 種か

二月のこころ

種か 種か



神祇

|      |    |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|----|----|----|----|
| 持以   | 東茂 | 志江 | 梅珠 | 河風 | 宗拱 | 凍梨 | 午生 |
| 城のふや | 有也 | 田舎 | のり | のり | のり | のり | のり |
| のり   | のり | のり | のり | のり | のり | のり | のり |
| のり   | のり | のり | のり | のり | のり | のり | のり |
| のり   | のり | のり | のり | のり | のり | のり | のり |
| のり   | のり | のり | のり | のり | のり | のり | のり |
| のり   | のり | のり | のり | のり | のり | のり | のり |
| のり   | のり | のり | のり | のり | のり | のり | のり |
| のり   | のり | のり | のり | のり | のり | のり | のり |
| のり   | のり | のり | のり | のり | のり | のり | のり |

雜十四

神垣やりのり言乃措れ切 已百  
 大嘗会の法都乃内かまはつる信止あり  
 東の口持もいれはるる本のみ  
 阿~~~~も若きなり其の者 可周



祝

聖代頌

皇恩浩々如天如地

二柳

射家の子孫

皇恩浩々如天如地

唐瓦

女の子孫

皇恩浩々如天如地

吳琴

年子の孫

皇恩浩々如天如地

花菴

新井五

人の書

皇恩浩々如天如地

他

清後の書

皇恩浩々如天如地

青容

公乃

皇恩浩々如天如地

馬

松

皇恩浩々如天如地

如

事

皇恩浩々如天如地

如

立

皇恩浩々如天如地

如



御即位の御事  
 おくし  
 萬歳の懽喜

終六廿

|                                           |       |       |                                        |                                        |                                   |                                   |                                    |
|-------------------------------------------|-------|-------|----------------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|
| 百一集                                       | 和漢百花賦 | 同     | 俳諧十論                                   | 古今抄                                    | 和漢文操                              | 新撰大和綱                             | 本朝文鑑                               |
| <small>冬今夏送發白并<br/>百人の画像</small><br>一冊 康工 | 一冊 同  | 同     | <small>新古今評編<br/>後述十箇条</small><br>一冊 同 | <small>再撰貞享式<br/>後述十箇条</small><br>一冊 同 | <small>假名<br/>美名文</small><br>七冊 同 | <small>日本<br/>助語辞</small><br>二冊 同 | <small>假名<br/>文集</small><br>五冊 並二坊 |
| 千代尾句集                                     | 善柳發句集 | 後篇    | 麦草句集                                   | 鬼費句選                                   | 和言                                | 新類題句集                             | 類題發句集                              |
| 二冊 既白                                     | 二冊 後川 | 二冊 志乃 | 三冊 桂麦                                  | 二冊 善村                                  | 二冊 鬼費                             | 五冊 同                              | 五冊 煉夏                              |



|                         |                          |    |     |    |    |
|-------------------------|--------------------------|----|-----|----|----|
| 蕉門書のり                   | 二冊                       | 既白 | 白扇集 | 二冊 | 治化 |
| 姑射文庫                    | <small>画漢集</small><br>三冊 | 曉齋 | 挑燈人 | 二冊 | 北枝 |
| <small>芭蕉</small><br>名録 | 發白糸                      | 三冊 | 蝶   | 一冊 | 一音 |
| ふ                       | 子冊                       | 芭蕉 | 行狀  | 紀  | 二冊 |
| 之                       | 尚白                       | 句  | 所   | 二冊 | 考  |
| 俳諧                      | 名所                       | 小鏡 | 四冊  | 蝶  | 二冊 |
| 其角七部集                   | <small>みか</small><br>秋山家 | 指集 | 沙   | 續  | 二冊 |
| 真実                      | 幸                        | 五冊 | 蝶   | 之  | 五冊 |

|         |    |        |
|---------|----|--------|
| 蕉門俳書畧目録 | 書林 | 井筒屋庄兵衛 |
| 奥のり     | 一冊 | 芭蕉     |
| 同       | 二冊 | 製一     |
| 俳諧埋木    | 一冊 | 季吟     |
| 葛       | 一冊 | 支考     |
| 森       | 一冊 | 支考     |
| 及       | 三冊 | 支考     |
| 篇       | 一冊 | 支考     |
| 俳諧      | 一冊 | 支考     |
| 奥       | 十冊 | 貞徳     |
| 同       | 九冊 | 許六     |
| 俳諧      | 一冊 | 其角     |
| 葛       | 一冊 | 乙州     |
| 森       | 一冊 | 支考     |
| 及       | 二冊 | 其角     |
| 篇       | 五冊 | 支考     |



東山集

芭蕉新繪烟傳三冊 蝶友 蕉門俳諧語錄二冊 蝶友

同 發句集二冊 同 去來 發句集二冊 同

同 俳諧集三冊 同 去來 抄 二冊 蝶友

同 文集二冊 同 芭蕉門古人真蹟二冊 蝶友

同 附合集二冊 蝶友 新きく記 一冊 同

同 七部集 是れ日々の抄とて巻々續續の續さるるのゆゑ小刻合巻二冊

同 大字紙本七冊 再刻 改正 去來新編一冊 蝶友

同 續編 海川即原集有傳海海也心 小刻合巻二冊

寛政五年癸丑七月

皇都書肆

井筒屋庄兵衛

橘屋治兵衛

梓行



